



藤が丘の風たより 院内報

3号

発行日【2008年11月】
発行者 昭和大学藤が丘病院
発行責任者 副院長 三邊武幸
〒227-8501
横浜市青葉区藤が丘1-30
Tel.045-971-1151

第24回 昭和大学公開講座



真田病院長 挨拶



整形外科 玉置 聡助教



精神神経科 尾鷲登志美講師



内科・神経 若山吉弘教授

平成20年10月18日(土)14時からC棟講堂にて、青葉区大学リレー講座「暮らしと健康」の第24回昭和大学公開講座が開催されました。今回は「高齢長寿日本一を支える藤が丘病院」と題し、青葉区が長寿日本一に認定されたことをメインテーマとし開催致しました。当日は天候にも恵まれ、113名と前回より多くの聴講者に来て頂き大盛況の末に終了致しました。初めに整形外科の玉置聡助教より「運動器疾患と下肢の関節痛」についてご講演を頂きました。続いて精神神経科の尾鷲登志美講師より「睡眠の役割と睡眠不足の弊害」についてご講演頂きました。最後に内科神経の若山吉弘教授より「認知症」というテーマで、多くの事例を紹介しながらご講演頂きました。次回のテーマは未定ですが、開催は来年の6月を予定しております。

院内めぐり ～リハビリテーション室～



後列:川原 渚 加藤 馨 本多 瞳 川津君枝
前列:若林俊夫 及川雄司 井口暁洋

みなさんリハビリテーションにどのようなイメージを抱いていますか？

「痛い」「きつい」「つらい」「気晴らし?」...。そんなことはありません。リハビリテーションとは「障害をもった方の能力を最大限にできるだけ早く、できるだけ十分に回復させる方法であり、ハンディキャップを減少させること」です。

藤が丘病院リハビリテーション部は今年 4 月より新体制となり、現在リハ科医師 1 名、理学療法士 5 名；事務員 1 名で構成されており、入院中の患者さんの術後や、発症直後の急性期リハビリテーションの実施、また廃用性症候群の予防を実施しています。

目標

各診療科よりご依頼をいただき、リハ科医師が診察を行い、リスクと適切なリハビリの方向性を理学療法士に指示し、毎日 100 名前後の入院中の患者さんのリハビリテーションを行っています。

本年度は、「患者さんの機能回復に役立つ様に知識・技術の向上に努める。また教育・研究にも力を注ぐ」を目標にスタッフ一同頑張っています。

セールスポイント

近年早期離床が注目され、藤が丘病院リハビリテーション部でも早期より医師の指示によりリハビリを開始しています。午前中は訓練室においてこられる方を、午後はベッドサイドにて急性期でリスクの高い方や離床の進まない方を対象にリハビリを施行しております。

対象となる診療科はすべての科！！そのため、起居動作が全介助レベルの方から、プロのスポーツ選手まで様々な機能レベルの方に対して、「機能回復」というゴールへ向かい、きめ細かな治療プログラムを立案し実施しています。

要望

多数の患者さんが様々な診療科から来室しているため、リハビリ室はとても混雑しています。効率よく安全面に十分配慮できる環境を保ち、少しでも患者さんの待ち時間を減らすため、事務員をはじめ、スタッフ一同様々な工夫をしております。

急性期リハビリテーションではリスク管理や患者情報を交換する上でも、他部門との連携が絶対であり、尚且つ病棟との関わりも重要と考えますのでご協力のほど宜しくお願いいたします。

文責：若林俊夫

整形外科 ～院内めぐり～



整形外科は、股関節外科・脊椎外科・膝関節外科・外傷外科等幅広い運動器の疾患の治療を扱う科であり、それぞれについて専門学会が存在するほど疾患内容も多彩です。

当科では開設以来、幅広い分野の高度医療を目指してまいりました。お蔭様で医療水準にはかねてから定評があり、専門領域のエキスパートが診断・治療にあたっており、地域のみならず遠方から患者様が来院されています。

セールスポイント

当科は、昭和大学藤が丘病院と昭和大学藤が丘リハビリテーション病院の2カ所を拠点としており、約150床を有しております。藤が丘病院では、股関節疾患の治療（大腿骨頭壊死の関節温存手術、末期変形性股関節症の人工股関節置換術等）、重度脊椎・脊髄疾患の治療、難治性骨折の治療、小児整形疾患の治療、膝関節疾患の治療（変形性膝関節症の人工膝関節置換術等）が行われています。人工関節置換術は、年間約170例程度施行されております。また外傷については、救命救急センター（3次救急）、ER（1次、2次救急）での症例を24時間迅速対応をモットーとし治療しております。そのため緊急手術も年間を通じて数多く行っております。リハビリテーション病院では手、肘、肩、膝関節のスポーツ整形外科を中心に、多くのアマチュア選手、プロ野球選手、プロサッカー選手等スポーツ選手の診療をしております。予定手術数の増加や、緊急入院・緊急手術などで、関係の皆様にはいつもご協力を頂きまして本当に感謝しております。この場をお借りしまして、お礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

2008年6月現在、医局員数は80名、常勤派遣病院は14病院となっております。藤が丘病院・リハビリテーション病院の診療班・診療体制は、藤が丘病院の渥美教授、小原准教授、神崎講師、リハビリテーション病院の筒井准教授、扇谷准教授、三原講師のもと、玉置助教班長の股関節班、渡邊助教班長の救命・外傷班、神崎講師班長の脊椎班、高木助教班長の膝班、鈴木助教班長のリハビリ病院上肢班、中田助教班長のリハビリ病院下肢班、塩原助教班長のリハビリ病院脊椎班の各班におきまして、診療および後輩の指導にあたっております。

医局として昨年より「地域医療症例検討会」を立ち上げました。年に1回、近隣の先生方をお招きして、諸先生から紹介していただいた患者様のその後の報告と、私たちがどういうコンセプトで治療に当たっているかを紹介した上で、全員で検討する会としました。多数の先生に参加していただき、その後の親睦会にても活発な討論ができて、本当に有意義であったと考えております。今後も継続していく予定であります。

目標

これからも整形外科医局として、新しい試みに積極的に挑戦していきたいと思っております。諸関係の皆様におきましては、引き続きのご協力と、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。